「にこにこ野見山」分科会

釘宮順子、林伸之記　　平成 21 年 7 月 28 日　福祉センター

Q：　地域で集まりを企画しても高齢者が出てこない

A＊老人クラブが、多くの地域で消滅している、と聞く。

区長に推薦されたときに、自分がやりたいことをマニフェストにして、それを実行する条件で引き受けた。権限を持った人が行動しないと皆を巻き込めないと、思った。

区長の権限を使い、高齢者のお宅を頻繁に訪問した。今では、自治区内のほとんどの家の人と知り合いになれた。行事への参加を呼びかけるのにやりやすくなっている。

＊岩間氏ご自身が、人と接することが得意である。

その資質もあり、常にマメに人に接し、交流をはかるようにしている。

区長が率先して歩く！　がキーワード。

＊楽しくないと皆来てくれない。楽しい行事が必要である。

野見山自治区では、組長が 1 年ごとに変わる、役員も頻繁に変わる。これでは中期的な活動が続かない。そこでボランティアグループの結成を思い立った。

楽しいとは、招待された人が楽しいだけでは行けない。世話をする人達・ボランティアの人が楽しくないと長続きしない。ボランティア自身が楽しめる行事も実施している。

Q：住民の自主活動・ボランティア活動に、多くの人を巻き込む方法とか、活動を継続できる工夫は

A＊高齢者から若者にチェンジしていかなければならない。若者は損得で　動く傾向があるが、とにかく「若者（20～40代）集会」を開いて、要望を聞いた。

30代中心に15人程が集まったので、この人達を核にして囲い込むことから始めたい。次回は9／6に高月院のご住職を招いて、お話を聞く集会を予定している。

＊若い人をいれて活動することは、意識的に人材(後継者) の育成につながる。

＊継続するには楽しさが大事、その工夫をすること、またこまめさが大事である。

＊共通で通じることもある、1対1の接触は世代を超えて有効である。区長名で、若い人一人一人に手紙を出して参加を呼びかけた。

＊人は皆いそがしい。多くの関心事がある。すぐに忘れられてしまう。こちらが希望することを考えてもらう時間を、なるべく多くとると良い。色々なルートで接触するとか。違う活動で一緒になって、親しくする。

Q：地域の人たちは、こうした活動をどのように受け止めているか

＊自治区の家が、限られた範囲に存在している。同じ時代に出来た団地なので、ほぼ同じような世代の人が住んで知る。引っ越してきた人と、旧くから住んでいる人との対立はほとんど無い。

ボランティアグループや、自治区が色々な活動をしていることは、住民の人は皆良く知っている。

＊役員もグリーンジャンバーを着てよく歩いているので、それが地域の安心につながっているようである。